

令和6年度 事業計画



倉敷芸術科学大学



本学は、アートとサイエンスを包含する学修によってひとりひとりの能力を最大限に伸ばし、知性と感性を兼ね備えた創造力豊かな人材を育成します。



本学にとって財政基盤を安定させることが長年の課題になっていましたが、令和4年度の決算で経常収支差額が黒字に転じました。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行にともなって教育研究活動が活発になり、前年度にくらべ教育研究経費や管理経費の支出が増えました。しかし、人件費比率(人件費/経常収入:56%)、教育研究経費比率(教育研究経費/経常収入:39%)などの財務指標は健全さを保っています。この3年間、入学者を順調に確保できたことが財務改善の主要因になっています。

18歳人口が減少する厳しい環境の中で長期にわたって入学定員を充足させるためには、何よりも教育の質を向上させ大学の魅力を高めることが大事です。令和6年度から本格導入する「アート&サイエンス教育(A&S教育)」はそれをめざした総合施策です。これと並行して、「倉敷芸術科学大学ビジョン2031」で謳った「学生主体の大学づくり」の実現のために学修や学生生活に関する支援策を強化します。また、認証評価を令和6年度に受審するのに合わせて、教学マネジメントのあらゆる分野において内部質保証のPDCAサイクルが適正に回っているのかどうか検証します。

令和6年度の重点施策は以下のとおりです。

(1) A&S教育の推進

令和6年度入学生から学士課程の枠組みを従来型(教養科目+専攻科目)からA&S教育(Basic Program+Advanced Program)へと転換します。1年次対象のBasic Programの大半が新規開講です。なかでも感性や身体感覚を呼び覚ますことをテーマにしたCore科目(必修12科目、16単位)はすべて新規です。学生による授業評価アンケートなどを用いて授業の実施状況を点検・評価し、DP・CP、カリキュラムツリーなどとの整合性を保っているかどうか検証します。

(2) 「学生主体の大学づくり」のための多面的施策

従来の図書館機能を図書館2階に集約し、1階スペース全体(名称:アカデミックコモンズ)を学生の主体的な学びの場、自主的なグループ活動の拠点として整備します。その一面にアカデミック・アドバイジングデスクを設け、学生の抱える多様な課題の解決や学生自身による将来の目的・目標の設定と達成に向け、アカデミックアドバイザーを中心とする総合的サポートを行います。

また、基幹システム(Campus Plan)やLMS(Web Class)のデジタルツールを活用して、学生一人ひとりに対応した支援体制の構築を進めます。さらに、学友会・同窓会を改編した全学学生会・校友会の活動を軌道にのせ、より多くの学生が課外活動に参加できるよう支援を強化します。加えて、新たに発足した学生代表者会議と大学執行部との懇談会(初回は令和6年2月に実施済)を通して学生の要望や意見を取り入れ、学生目線のキャンパス環境整備を進めます。

倉敷芸術科学大学 学長 柳澤 康信

I. 「アート&サイエンス教育」の開発・展開

1. 教育力の強化

A&S 教育初年度段階の実施状況を点検・評価し、DP・CP・履修規程、およびカリキュラム・ツリーなどとの整合性を検証し、またカリキュラム表・科目一覧表・時間割表の改善につなげる。

A&S Basic Program について、Core 科目・Standard 科目・Fieldwork 科目の実施・運営状況を点検・評価するとともに、プログラム全体の安定的・持続的な運用方法を再整備する。

A&S Advanced Program について、PBL 科目におけるプロジェクト等の実施・運営状況を点検・評価し、シラバスの内容を再検討する。

中期計画	事業計画
【1】 A&S 教育の理念・目的・目標を文章化する。	【1】 A&S 教育初年度段階の実施状況について点検・評価し、全学および各学部学科の DP・CP との整合性を検証する。
【2】 Basic Program と Advanced Program の関係性・位置づけを明確にする。	【2】 A&S 教育初年度段階の実施状況について点検・評価し、全学および各学部学科の履修規程とカリキュラム・ツリー、A&S 教育ラーニングフローとの整合性を検証する。
【3】 A&S 教育を組み入れたカリキュラム案を作成する。	【3】 A&S 教育初年度段階の実施状況について点検・評価し、全学および各学部学科のカリキュラム表・科目一覧表・時間割表の改善につなげる。
【4】 初年次生対象の基礎的な全学共通プログラムを開発する。	【4】 基礎的な全学共通プログラムである A&S Basic Program を構成する科目（Core 科目・Standard 科目・Fieldwork 科目）の実施・運営状況について、授業評価アンケートその他を用いて点検・評価し、シラバス・進行表の内容を再検討する。
【5】 全学共通プログラムを構築するための研修プログラムを開発する。	【5】 A&S Basic Program 全体の安定的・持続的な運用のために、Basic Program 担当登録制度を改善し、研修プログラムを計画・実施するとともに、TA・SA を効果的に活用する。
【6】 学生参加型プロジェクト（ビジョン 2）・フィールドワーク（ビジョン 3）と連携しながら総合的・発展的な教育プログラムを開発し、カリキュラム案に位置づける。	【6】 総合的・発展的な教育プログラムである A&S Advanced Program の PBL 科目（全学・学部）におけるプロジェクト等の実施・運営状況について、授業評価アンケートその他を用いて点検・評価し、シラバスの内容を再検討する。
【7】 実社会の問題解決につなげることができ複数の授業科目を開講して、学生の主体的な学びを促進する。	【7】 A&S Advanced Program の全学共通科目「A&S PBL I・II」の実施・運営状況について、授業評価アンケートその他を用いて点検・評価し、シラバスの内容を再検討する。

2. 研究・創作活動の推進

学内の研究・創作活動の取り組み事例から、A&S 教育の科目の内容改善に資する情報を抽出し、科目担当者と共有することによって A&S 教育の基盤づくりに貢献する。また、学内外の競争的資金における共同研究の申請の支援を通して、異分野間での共同研究・創作活動の支援を推進する。

中期計画	事業計画
【8】 A&S 教育の基盤づくりに繋がる倉敷芸術科学大学らしい研究・創作活動を推進する。	【8】 本学の研究・創作活動の取り組み事例の中から、A&S 教育の科目開発に資する内容を抽出して全学で情報共有するとともに、A&S 教育の科目担当者へフィードバックする。
【9】 A&S 教育への取り組みをふまえた特色ある研究・創作活動が可能になるように環境や支援の仕組みを作る。	【9】 A&S 教育と関連する研究・創作活動を支援するために、A&S 教育の科目に関連する学外の教育研究情報を収集し、学内で情報共有を行う。

中期計画	事業計画
【10】 研究や創作活動において、学内での情報共有を密にし、それぞれが A&S の視点を持って発信できるよう異分野間での共同研究・創作を支援する仕組みを作り実施する。	【10】 学内外の競争的資金における共同研究の申請を支援することで、異分野間での共同研究・創作活動を支援する。

II. 学生参加型のキャンパスのビジュアル・プロジェクト

1. 学生参加型による実践

令和5年度に実施したプロジェクトの実績から、ビジュアルプロジェクトの可能性と方向性を具体的に示すことができた。特に生命科学部と芸術学部のコラボレーションによるプロジェクトの実施は、本学の教育の根幹である A&S 教育の実践をアприオリに示した。

全学的にビジュアルプロジェクトを普及させるために、A&S 教育の A&S Basic Program の Fieldwork 科目、A&S Advanced Program の PBL 科目への組み込みを議論していく。

今後のさらなる学生の参加、地域連携を推進するために、研究・地域連携センターと連携しながら対外的なビジュアルプロジェクトの成果報告を行う PR ツールを準備するとともに、学内外への情報発信体制も整えていく。

中期計画	事業計画
【11】 学部の領域を超えて、初年次から全員がビジュアルプロジェクトに参加できる体制を確立し、学生が楽しんで学べる場を提供する。	【11】 -1 教員や学生がビジュアルプロジェクトに参加するための窓口として、申し込みフォームを用意する。合わせてビジュアルプロジェクトの成果や進捗情報を学内に周知するため、学内専用サイトの構築と図書館に設置されるアカデミックコモンズにビジュアルプロジェクトの成果を掲示する。
	【11】 -2 A&S 教育の A&S Basic Program の Fieldwork 科目、A&S Advanced Program の PBL 科目への組み込みを関連部署と協議し、推進していく。
【12】 プロジェクトを実践するための5つのテーマ（自然景観、キャンパス環境、XR、創作活動、地域活性化）を設定し、推進する。	【12】 5つのテーマ（自然景観、キャンパス環境、XR、創作活動、地域活性化）を学内外で展開し、学生の活動の場を広げていく。
【13】 大学の人材、資産、立地など既存の価値を発掘し、ブリコラージュ的に組み合わせることで本学独自の価値を創造する。	【13】 加計美術館での芸術学部と生命科学部のコラボレーションを継続し、さらに早期に展示の質と魅力を高める企画を計画し、実施する。
【14】 教員と学生による協調的な組織をもとに、学生を中心としたアクティブな自主参加型の体制を構築し、自立した運営形態を促進する。	【14】 学生が参加できる体制について、単位化するだけでなく、サークル活動等で自主的に参加できる枠組みづくりを議論検討し、受け皿の構築を目指す。
【15】 XR クラウド等の技術インフラを整備することで本学独自のプロジェクトを展開し、本学の先進性を発揮する。	【15】 令和5年度の検証結果から XR クラウドの費用対効果や運用の限界が明らかになったことから、学生に馴染みやすい V チューバーコンテンツを試験的に展開し、その可能性を検証する。
【16】 学内にとどまらず、ヘルスピア倉敷、加計美術館などの関連施設と連携しながらビジュアルプロジェクトを展開することにより、大学の魅力を拡大する。	【16】 ビジュアルプロジェクトの成果を示す PR ツールとしてチラシを制作し、地方自治体や地域で連携する団体に配布することにより、学外でビジュアルプロジェクトの認知を高め、新たな地域連携につなげる機会を創出する。

Ⅲ. 学生の活動のフィールドとしての倉敷及び瀬戸内圏

1. 地域連携

岡山県・岡山市・倉敷市や愛媛県今治市などとの地域連携に係る学内の取り組み情報を幅広く収集し、研究・地域連携センターが中心となって、デジタル技術を活用して学内外で情報発信する。発信する地域連携の情報はPBL事例集として教育研究や新たな地域連携の取り組みにつなげるために学内で活用を進めるとともに、教職員が連携活動を通じて学生と地域の人々を繋ぐファシリテータになるための体制づくりを行う。

中期計画	事業計画
【17】 本学が地域イベントの活性化拠点となるよう、情報の収集と発信を行う環境を整備し体制を構築する。	【17】 学内の地域連携事業に関する情報の組織的な集約手順の改善を進めるとともに、学内関係部署と連携して地域連携の成功事例を学内外へ情報発信することで、地域イベントに積極的な大学として市民から認知されることを目指す。
【18】 倉敷や広く瀬戸内圏を舞台とする芸術祭等のイベントにおいて、学生が地域で学ぶ意味を体感し、また地域で学びたいという意欲を向上させるよう地域と連携する。	【18】 学生に対して学内の地域連携事業に関する情報の共有を図ることにより、学生たちが地域のイベント等に積極的に参加できる環境を整備する。
【19】 学生自らによる地域における課題の発見・解決、もしくは活性化に結びつける活動ができるよう、地域の問題について学内外の人と出会い交流できる環境を作る。	【19】 学内の授業科目の中で実践されたPBLの事例を集めてPBL事例集を充実させることにより、教職員や学生がPBLに取り組みやすくなることを目指す。
【20】 地域住民、産業界、行政機関などのステークホルダーと学生たちが、地域の身近な課題について協働しながら解決策の提言や実施ができるような学びの場を設定する。	【20】 学生が参加して地域課題を発見することができる「学びの場」を地域と連携して提供することにより、学生たちが地域の人たちと協働して課題に向き合う機会を創出する。
【21】 地域連携に関して地域から大学に寄せられる情報や教職員が関与している情報を学内で共有し、全学として地域連携を推進する体制を構築する。	【21】 地域連携に関する情報や成果をポータルサイトを活用して学内で情報共有するとともに、大学HPを通じて学外に発信する内容を充実させる。
【22】 学生が地域に出て自発的に学び自己を成長させることができるよう、学生の興味・関心や地域との関わりについて情報を収集し、学生指導に生かせる仕組みを作る。	【22】 地域連携に関する情報を学生指導に活かせる仕組みとして、PBL事例集を教職員に閲覧しやすい形で編集して配布する。
【23】 学生が自ら企画し行政や地域の人たちと交渉しながら地域の課題解決や活性化等に取り組めるよう、教職員は、地域の方々に理解と協力を求め、同時に学生が行う活動をサポートする体制を作る。	【23】 -1 学生が自ら企画し行政や地域の人たちと交渉しながら地域の課題解決や活性化等に取り組んだ成果を地域ごとにまとめて学内で情報共有し、地域単位での円滑な連携体制を作る。
	【23】 -2 産学公コーディネーターの配置を視野に入れ、大学事務局と協働しつつ、地域連携や研究支援を専門的に担当する職員の採用・養成等の在り方等について検討を行い、今後の方向性を導き出す。

IV. 学生一人ひとりに対応した学生支援

1. アカデミック・アドバイジング体制の構築

2. 学修支援の充実

アカデミックアドバイジングデスクの運営や、基幹システム・LMS のツール活用などを通じて、学生一人ひとりに対応した学生支援体制を整備する。

アセスメントプランに基づき、学修成果の点検・評価から、教育内容・方法の改善につなげるサイクルを確立する。

教育 DX 推進計画を策定・公開するとともに、教職員・学生が LMS 使用に習熟し、最大限に利用・活用するための方策を検討・実施する。

中期計画	事業計画
【24】教育開発センター、学生支援センター、健康支援センターが連携して共有する情報に基づいて有機的に活動できるシステムを構築する。	【24】 入学前教育の実施、アカデミックアドバイジングデスクの運営、および基幹システム (Campus Plan) や LMS (WebClass) のツール活用などを通じて、学生一人ひとりに対応した学生支援体制を整備する。
【25】 アセスメントプランに基づいた PDCA サイクルを確立する。	【25】 アセスメントプランに基づき、機関レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの各段階において、学修成果の点検・評価を多様な方法で実施し、教育内容・方法の改善につなげるサイクルを確立する。とくに、機関レベルにおける検証について、自己点検・評価委員会など相応の全学組織が主体となって実施する。
【26】 ICT を利用して学生が自分の学修進捗状況を確認できるシステムを構築する。	【26】 LMS (WebClass) と外部客観テスト (GPS-Academic 等) を活用し、学修成果の把握・可視化するシステムを構築する。
【27】 教育 DX 推進計画を策定し、運用する。	【27】 教育 DX 推進計画について、導入した基幹システム (Campus Plan) や LMS (WebClass)、また学生主体の大学づくりの観点、さらに社会的状況などを勘案して作成した素案を再検討し、最終的に策定・公開する。
【28】 LMS を中心に教育のデジタル化ならびに高度化を図る。	【28】 教職員・学生が LMS (WebClass) 使用に習熟し、最大限に利用・活用するための方策を検討・実施する。

3. 学生生活支援の充実

令和 6 年度から発足する全学学生会の活動を軌道に乗せ、より多くの学生がより活発に活動できるよう支援する。また、アカデミックアドバイジングデスクと関連部署との連携により学生の相談に対応できる体制を作る。

中期計画	事業計画
【29】大学生活におけるあらゆる場面での仲間づくりを支援し、居心地の良い居場所を提供することで、退学率を減少させる。	【29】-1 新たな全学学生会における活動のルールや手続き方法を周知徹底し学生の活動を軌道に乗せるとともに、部室の使用ルールを定めて効率的に活用するなどしてより多くのサークルに活動場所を提供する。
	【29】-2 図書館に作ったアカデミックコモンズの運用を行う中で問題点を掘り起こして改善策を策定する。

中期計画	事業計画
【30】 新入生オリエンテーションなどの各種イベントを学生が立案し実施することにより、新入生と在校生や、在校生同士の相互扶助の関係を構築する。	【30】 各学科に働きかけて新歓イベントの開催を行う。また、サークル活動に関しては、オリエンテーション時にも新入部員勧誘の時間を作るだけでなく、新たに入学式の後に勧誘の機会を設けるとともに各種サークルの活動内容を知らせる展示を行う。
【31】 大学生生活におけるあらゆる不安を早期に解消できるよう、オンラインの相談窓口など学生のニーズにあった全学的な相談体制を構築し、快適な学生生活を送ることが出来る環境をつくる。	【31】 アカデミックアドバイザーと協力し、アカデミックアドバイジングデスクに寄せられる相談内容の整理を行い、関連する部署と連携する仕組みを作る。
【32】 学生のニーズにあった相談窓口を活用して、学生の経済的な悩みを早期に検出し、適切なアドバイスを行うことで、経済的な理由での退学率を減少させる。	【32】 チューターが経済的な悩みに対応できるよう「チューターの手引き」に必要な事項を書き入れるなどの改善を行う。
【33】 学生を経済的にサポートするため、学内ワークスタディなど学内雇用の場を創出する。	【33】 学内ワークスタディとして学生に提供できる仕事内容をリストアップして、学内での経済的な学生支援につなげる。
【34】 学友会組織を見直し、運用を簡略化かつ明確化するとともに、教職員によるサポート体制を整備する。	【34】 新しいルールの下で全学学生会の活動を支援し、学生活動における要望やそれに対する大学の回答などを情報として開示し、全学学生会を活性化する。

4. 障がい学生支援の充実

障がい学生支援に対する教職員の意識向上を図るとともに、ボランティアを志向する学生の組織化など活動体制の整備を行う。

中期計画	事業計画
【35】 全ての教職員・学生が共生社会を目指した障がい学生支援について理解するために、研修会を開催し、障がい学生支援教育を行う。	【35】 教員間の情報共有や障がい学生に対する認識の強化および改善を目的とした研修会を開催する。
【36】 障がい学生の修学支援を充実させるために、キャンパス環境の整備や学内支援者を育成する体制を構築する。	【36】 -1 令和5年度の岡山県「あいサポート」講習を受けた学生のアンケート結果を分析し、その効果を解析した上で本学のより多くの学生に「あいサポート研修」に参加する体制を整え、「あいサポート企業・団体」としての認定を得る。
	【36】 -2 ピアサポートを含めたボランティアを希望する学生に対して大学として「活動証明」を発行するための組織化を行い、情報収集によるボランティア活動のリスト化と学生への情報提供を行う仕組みを作る。

5. 留学生支援の充実

留学生の支援体制として、留学生の入学前から在学中、卒業後の情報を教職員が共有し、募集広報にも活用できるように情報発信体制を整える。卒業までに日本語能力を向上させるために、各種の日本語能力試験の受験と合格を目標にさせるように意識付けさせ、加えて就職にも役立たせるために、各種のイベント交流や就職に関するセミナーやインターンシップに参加できるような体制を作る。

中期計画	事業計画
【37】留学生の在学中および卒業後の情報を一元化して教職員で共有するとともに、有効活用するために学外への発信を強化する。	【37】 留学生の学修・生活情報を教職員で共有し、卒業後の進路情報を集積しながら、募集広報につながる SNS の発信体制を整備する。
【38】留学生の日本語能力を継続的に向上させるため、必要な科目を配置し、試験や課外活動などを活用する体制を整備する。	【38】 日本語能力試験等の受験率および合格率を向上させるため、留学生への時期にあった各種説明会やアナウンス、動機付け等の検証と効率化を行う。
【39】留学生と日本人学生および地域の人々との交流を通して、留学生が日本文化を理解し、友好関係を構築する。	【39】 留学生が関わるイベント等の交流活動を通じて、留学生を中心として日本人学生や地域の人々が相互に他文化理解を促すような体制を継続発展させる。
【40】留学生が外部奨学金を獲得する機会を増やす体制を整える。	【40】 奨学金を希望する留学生が情報を入手できるように、発信体制を整備する。また、採択率を上げるために、奨学金獲得の支援体制を構築する。
【41】キャリア形成過程を可視化することで、留学生が自信を持って就職活動できるようにし、また希望する全ての留学生が日本で就職できるようにする。	【41】-1 留学生の就職活動における基本スキルに役立つ様々なセミナー（リモート含）や学内就職ガイダンス（留学生用ガイダンス含）の参加率を上げるため、キャリア支援課とともに学科オリエンテーションや SNS 等を利用してガイダンス開催の情報発信体制を強化する。
	【41】-2 希望する留学生が日本で就職できるように、インターンシップ先の掘り起こしと参加を促進する体制を作る。

6. キャリア支援の充実

学生の汎用的能力を可視化する GPS-Academic の分析データの活用度を向上することや分野ごとの特性に応じたキャリア指導を行い、学生満足度の高い就職を支援する。また、学生の活動記録を充実させて自信をもって就職活動できるよう後押しする。

中期計画	事業計画
【42】低学年次から段階的で体系的なキャリア構築支援を行い、学生の各学年次に応じた就職支援により、満足度の高い進路を実現する。	【42】-1 チューター教員が学生に対して適切なキャリア支援を実施できるように、教員を対象に就職活動のトレンドをおさえたキャリア支援のあり方や GPS-Academic の結果を活用した学生支援を学ぶ FD を、エージェントを招いて企画・実施する。
	【42】-2 卒業生アンケートから就職活動に関する意見を分析し、就職活動支援に必要な情報を整理するとともに、学生へのヒアリングにより就職活動の成功事例をモデルケースとして情報を蓄積し、就職活動支援に活用する。

中期計画	事業計画
【43】外部のキャリアサポートを利用することで、進路に対する学生の満足度を向上する。	【43】 全学の学部1年生と3年生が毎年受検している、学生の汎用的能力を可視化するGPS-Academicの分析データをキャリア支援に活かすために、教員に対して分析データへのアクセスの利便性をさらに高めるとともに、キャリア支援に有用なデータ分析を行う。
【44】学生が成長を実感できるためのポートフォリオの導入を見据えた整備を行う。	【44】 従来の就職活動資料の準備支援の取り組みに加えて、「進路調査票」、「GPS-Academicの個人カルテ」、「学生の活動記録」の管理指針を策定し、学生が有利に就職活動ができるための方策を立案する。
【45】就職活動におけるICTの積極的な利用により、学生の物理的障壁を無くす。	【45】 リモート面接に対応できる設備と体制を整備し、学生がリモート面接を受けやすくする。
【46】同窓会組織を見直し、卒業生との連携を深めるための体制を整備する。	【46】 校友会を通じて卒業生と本学とのつながりを深めるため、学内に校友会活動の場を確保し、校友会活動を支援する。

V. 情報発信機能の強化によるブランディング

1. ブランディングと広報・PR活動の強化

認知度向上とブランド定着のため、学生主体のプログラムやイベント情報の一元化、学内の既存資産の発掘や新たなコンテンツの開発を行う。その際には運用ルールを整備したオウンドメディアを中心に、統一されたUIやブランディングサポーター制度を活用する。教職員のブランディングに関わるリテラシーの向上とこれを通じたインターナルコミュニケーションを図り、情報発信を体系化してプレスリリースにつなげメディアリレーションズを強化する。

中期計画	事業計画
【47】学生や教職員がブランディング・広報活動に参加できるイベントやプログラムを開発・実践する。	【47】 学生が参加・運営するプログラムの情報収集と一元化を行うとともに、霞祭や芸科祭等の学生が主体となるイベントの広報的サポートを強化する。
【48】教育、研究・創作活動から生み出される様々な資産や各教員が持つ専門性、学生の様々な活動や大学が所有する資産の有効活用等を通じて、有益で社会が求めるコンテンツを発掘・開発する。	【48】 継続的な情報発信を図るため、学内情報を集約する仕組みを整備し、ブランディングサポーター制度を活用して、自治体や外部団体等との地域連携事業などを中心に魅力的な発信につながるコンテンツの安定的な開発を行う。
【49】オウンドメディアを中心とした積極的な情報発信を行う。	【49】 オウンドメディアの運用ルールを整備するとともに、ブランディングサポーター制度を活用して安定的な情報発信を行う。
【50】プレスリリースや企画提案機能を強化するとともに、情報交換などを通じてメディアとの関係を強化する。	【50】 開発したコンテンツをベースに安定的にプレスリリースを発信する。
【51】54番へ統合のため削除	

中期計画	事業計画
【52】 大学内外で活用するブランディングにかかるルールやUI (University Identity) の統一を図る。また、ニュースレターやパンフレット、ウェブサイトやブログなど社会とのタッチポイントとなるツールの開発・運用を一元化し、統一感のある広報活動を行う。	【52】 一貫したブランディングに向け、統一されたUIとルールを各部署で運用しやすい形でガイドラインとしてまとめて周知する。
【53】 組織間、教職員間のコミュニケーションを活性化し、組織を超えたコラボレーションの実現やA&S教育の実践など、「倉敷芸術科学大学ビジョン2031」の実現に向けた教職員の理解や活動を促進するインターナルコミュニケーションを強化する。	【53】 ブランディング方針の理解とA&S教育の浸透を促進するため、教職員向けの勉強会を実施する。
【54】 効果的なブランディング活動の実施に向け、大学ブランディングに関わる機能強化を図ることで、教職員や学生のメディアリテラシー、広報リテラシーを向上するとともに、効果的で継続的な情報発信の仕組みを構築する。	【54】 ブランディング推進室の指導・管理のもと、第2期となるブランディングサポーター制度を確立するため、学生サポーターに対する研修プログラムを実施し、図書館のアカデミックコモンズと連携して学生サポーター志願者の掘り起こしやその活動成果を周知できるような体制を整備する。

2. 入学者選抜の改革

A&S教育の導入や芸術学部改組に合わせてアドミッション・ポリシーおよび「求める人物像」を令和5年度に改定した。これらに基づき、より分かりやすく、より機能的に入学者選抜を実施できるよう、適正な実施回数や入試特待生名称に変更する。また、煩雑化して膨大になった入試関連業務について、引き続き整理していく。

中期計画	事業計画
【55】 「倉敷芸術科学大学ビジョン2031」に基づき改定されたアドミッション・ポリシーに基づき、学部学科・入学者選抜区分毎に設定している「求める学生像」を見直す。	【55】 ※新体制に向けてアドミッション・ポリシーおよび「求める人物像」の改定が完了。
【56】 アドミッション・ポリシーと「求める学生像」に基づいた、ブランディングや広報戦略に結び付く新たな入学者選抜方法を策定し、入学定員の充足を維持する。	【56】 -1 令和5年度に見直した複雑な入学者選抜制度について、より機能的に実施できるよう整理してスリム化を図る。
	【56】 -2 新たに設定した入試特待生基準に基づき、大学内外に分かりやすい入試特待生名称に変更する。
	【56】 -3 外国人留学生入試の出願時における受験生と大学双方の煩雑化を解消するため、インターネット出願や出願書類、検定料支払い方法などの検討、見直しを行う。

VI. 「学生主体の大学づくり」のための大学運営

1. 全学教学マネジメント体制の構築

教育組織、事務組織については、改組を通じて体制構築がほぼ完了している。それぞれが適切に機能しているかどうか検証するための仕組みづくりを図る。

中期計画	事業計画
【57】「倉敷芸術科学大学ビジョン 2031」に基づき3つのポリシーを検証・改定するとともに、アセスメントプランとの整合性を検証し、教学面におけるPDCAサイクルを確立する。	【57】 アセスメントプランに沿った検証及びフィードバックを実施し、3つのポリシーが適切であるかどうか確認するとともに、必要であれば改正する。
【58】インターナルコミュニケーションを促進し、教育組織・事務組織におけるセクショナルリズムを打破するため教育組織・センター・事務組織を見直し、学生主体の大学としての機能を果たすための協働体制を構築する。	【58】-1 大学院において、生命科学部を基礎とする新しい研究科の設置申請に向け準備する。
	【58】-2 ワークフローシステムの導入に伴い事務フローの見直しを進め、事務効率化、ペーパーレス化を目標に、事務処理におけるDXを推進する。
	【58】-3 学内ワークスタディ制度を活用し、学内のさまざまな業務において学生に就労の機会を設けて、就労意欲の涵養に寄与する。
	【58】-4 教員を含めた防災体制を再構築し、教職協働で安全・安心に取り組む体制を整える。

2. 内部質保証

内部質保証体制については、方針に基づき、学長会議・自己点検評価委員会を中核とした体制が整っている。今後はその体制の実効性について、データをもとに検証し、改善に結びつける体制強化が必要である。

中期計画	事業計画
【59】内部質保証方針を定めるとともに、現在の内部質保証体制を検証し、プロセスを明確にする。	【59】 内部質保証体制図に沿った検証・改善が実施できているかどうか検証する。
【60】学内の各種データを整理し、学内におけるIR機能の向上を図る。	【60】 導入された基幹システムおよび学修管理システムの利用を促進するために、説明会等を実施する。

3. 経営基盤の安定化

単年度の収支状況は改善している。引き続き、収入に見合った支出を念頭により適切な配分を実施し、目に見える形で学生に還元するよう努める。

中期計画	事業計画
【61】定員充足による安定的な学納金収入を確保するとともに、科研費、受託研究をはじめとする外部資金の獲得増加を目指す。	【61】-1 引き続き定員の充足による学納金収入の安定化と、各種補助金の積極的な獲得を目指す。特に施設整備の補助金に関しては、要件を満たす案件があれば予算計上を含め計画を立て申請する。
	【61】-2 研究・地域連携センターにおける岡山理科大学との取組みの実等を図り、科研費獲得増加を目指す。

中期計画	事業計画
【62】現在の財務状況を把握するとともに、中期財務計画を策定し、今後の財務改善策を策定する。	【62】 中期財務計画と令和6年度予算を比較検証し、財務比率ごとの目標達成度を確認する。
【63】限られた財源を有効に活用するために、予算策定方針を明確にし、学長裁量経費をはじめとする新たな枠組みを作り、重点項目への確実な配分を行う。	【63】-1 学生代表者会議等を通じて学生から上がった要望のうち、実施可能なものについて予算計上し、実施する。
	【63】-2 A&S教育にかかる経費を適切に計上し、教育が効果的に実施できるよう配分する。
	【63】-3 各室の使用状況を把握し、部屋の効率的な使用を促すとともに、室内を整頓し、環境美化に努める。
	【63】-4 室番号を見直し、各室の案内プレートを刷新し、学生の学内移動や来客対応に配慮する。
	<p>【63】-5 施設整備の年次計画に伴い、以下の点を中心に予算を配分し、実施する。</p> <p>【情報通信環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fiアクセスポイントの更新と学内基幹ネットワークの高速化により、芸術学部のPC必携化、県立高校で導入している1人1台端末の卒業生に対応する情報通信環境を整備する。 ・保守期間が終了し老朽化が進むL2スイッチ等のネットワーク機器を更新し、安定した情報通信環境を維持する。 <p>【省エネ（エコキャンパス）推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の蛍光灯などをLED化する。 ・既存の老朽化したエアコンを更新する。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和式トイレの洋式化、既存洋式トイレの温水洗浄便座への更新を進める。

主な行事予定	
4月4日	新入生入学前オリエンテーション
4月5日	入学宣誓式
4月6日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
4月9日	新入生研修
4月10日	前期授業開始
4月13日	霞祭
5月19日	オープンキャンパス
6月16日	オープンキャンパス（オンライン型）
7月20日・21日	オープンキャンパス
9月9日	企業懇談会
9月14日	教育懇談会（本学会場）
9月20日 9月	学位記授与式（9月卒業） 留学生別科1年半コース入学宣誓式
9月21日	オープンキャンパス
9月24日	後期オリエンテーション
9月25日	後期授業開始
10月26日・27日	芸科祭
1月	大学院芸術研究科（修士課程）修了制作展
1月15日～19日	芸術学部卒業制作展
未定	大学院芸術研究科（博士課程）修了制作展
3月16日	オープンキャンパス
3月23日	学位記授与式

学生数・教職員数

■在籍学生数

(令和6年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数		
			留学生	社会人	留学生		社会人		
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	1	1		12	4	3	1
	芸術研究科(修士)	10	11	8		20	15	11	
	産業科学技術研究科(博士)	2	0			6	0		
	産業科学技術研究科(修士)	8	1			16	1		
	人間文化研究科(修士)	15	0			30	1	1	
大学院 計		39	13	9	0	84	21	15	1
学 部	芸術学科	150	194	86		150	194	86	
	メディア映像学科	-				194	212	48	
	デザイン芸術学科	-				160	159	55	
	計	150	194	86	0	504	565	189	0
生 命 科 学 部	生命科学科	40	20	1		160	109	11	
	健康科学科	55	65	2		220	228	3	
	動物生命科学科	50	55	1		184	228	2	
	生命医科学科	55	44			220	204		
計		200	184	4	0	784	769	16	0
学 部 理 部	危機管理学科	(募集停止)	-	-	-	120	113	38	
	計	0	0	0	0	120	113	38	0
学部 計		350	378	90	0	1,408	1,447	243	0
通学制 合計		389	391	99	0	1,492	1,468	258	1
別 科	留学生別科	25	3	3		40	17	17	
	計	25	3	3	0	40	17	17	0

※社会人は社会人入試にて入学した学生数

(単位:人)

※留学生は在留資格「留学」を有する学生数

■教職員数

(令和6年5月1日現在)

学長	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	2	30	21	11	4	0	1	70	47

※副学長除く

(単位:人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和6年度 予算額	令和5年度 決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,263,324	2,105,956
		経常費等補助金	350,360	317,847
		その他収入	93,728	97,672
		計	2,707,412	2,521,475
	支出	人件費	1,438,050	1,435,976
教育研究経費		994,545	798,636	
管理経費		306,886	222,156	
その他支出		0	0	
教育活動収支差額			△ 32,069	64,707
教 活 外	収入	受取利息等	3	3
	支出	借入金利息等	1,440	2,336
	教育活動収支差額		△ 1,437	△ 2,333
経常収支差額			△ 33,506	62,374
特 別	収入	資産売却差額等	0	366
	支出	資産処分差額等	0	509,255
	特別収支差額		0	△ 508,889
基本金組入前収支差額			△ 33,506	△ 446,515
基本金組入額合計			△ 168,401	522,494
当年度収支差額			△ 201,907	75,979

■財務改善に向けた取組

- ・定員充足による安定的な収入の確保
- ・事業計画に沿った適切な財政支出
- ・予算編成方針に基づいた効率的予算配分と予算執行管理の徹底による経費の抑制

■施設設備整備計画（抜粋）

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
加計美術館外装改修工事	31,388
加計美術館屋根改修工事	30,683
トイレ改修工事	31,800

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
教育用ネットワーク機器更新	38,000